

月刊 しばうら

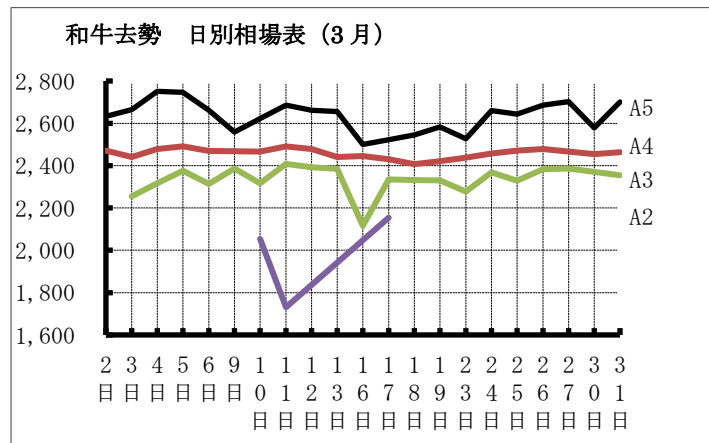
2026年 4月号

牛肉営業部

＜3月の相場動向＞

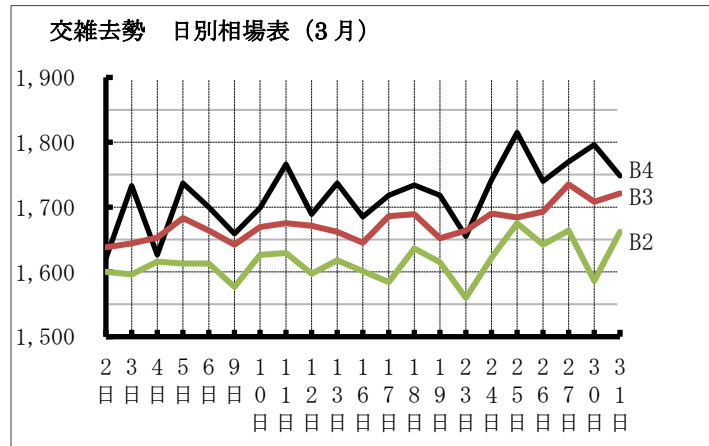
例年3月は送別会や春休みなどで外食需要が高まるが、今年は3月前半に平年並みの低温が続き、安価なスライス材を中心とした鍋物商材の需要が堅調に推移した。また、飲食チェーンでは高止まりする輸入牛肉の確保が困難となり、代替として交雑牛ロース等への需要が増加。このため、全等級で前年・前月を上回る相場となった。

和牛経産牛は量販店による引き合いが強い一方で、出荷頭数の伸び悩みにより相場がさらに上昇している。さらに、和牛ロースの国内需要低迷を受け、ネック・スネ・ブリスケなどの低価格部位においても価格改定が進み、全体として相場は堅調な推移を見せた。



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,648円	+97円 103.8%	+71円 102.8%
A4	2,458円	+183円 108.0%	+107円 104.6%
A3	2,341円	+204円 109.5%	+112円 105.0%
A2	1,907円	+59円 103.2%	+95円 105.2%



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,719円	+116円 107.2%	+22円 101.3%
B3	1,677円	+159円 110.5%	+45円 102.8%
B2	1,614円	+206円 114.6%	+57円 103.7%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	-	-	-
B2	1,308円	+151円 113.1%	+11円 100.8%

＜4月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、2月の輸入量は前年同月比4.6%増の3万712tで、うちチルドは10.7%減の9,889t、フローズンは13.8%増の2万824tとなり、チルドは前年に引き続き下回り、フローズンは豪州のトリミングが減少したが、米国のバラが大幅に増加したため全体では上回った。

農畜産業振興機構によると3月の牛肉輸入数量は、前年同月比7.6%減の2万8,600t（チルド11.5%減・冷凍4.5%減）、4月は10.0%減の4万7,800t（チルド8.3%減・冷凍10.5%減）で予測している。輸入牛肉については輸入価格が高水準にあること、チルド・フローズンともに主要国からの輸入量の減少が見込まれること等から、3・4月ともに前年同月を下回ると予測している。

輸入牛肉通関量		2月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	4,136	5,028	82.3%
	米国	4,784	5,206	91.9%
	その他	969	971	99.8%
	合計	9,889	11,068	89.3%
フローズン	豪州	8,718	9,340	93.3%
	米国	8,892	5,349	166.2%
	その他	2,674	3,614	74.0%
	合計	20,284	18,303	113.8%

出典：食肉速報 単位：t

＜4月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による4月の出荷予測頭数は、全体で前年比100.9%の9万6,300頭で、品種別にみると和牛は1.5%増の4万8,700頭、交雑種は0.3%増の2万2,800頭、乳用種は0.5%増の2万4,200頭と予測している。

東京食肉市場の4月と畜頭数は、冷凍機更新工事の影響により冷蔵在庫庫庫量が制限されることから7,640頭（前年対比93.9%）を予定しています。

＜4月の牛枝肉相場見通し＞

例年4月は気温の上昇に伴い、花見需要に加え、入学・就職祝い、ゴールデンウィークに向けた行楽需要の手当て買いなどが見込まれる時期に当たる。和牛は、和牛肉需要拡大緊急対策事業を活用した販売促進効果が期待されるものの、需要はヒレ、ランプなどの人気部位と、国内の物価高から低価格帯部位に偏る公算が大きい。このため、下値は安定するとみられる一方、高等級は大幅な上昇は見込みにくい。

交雑種は、量販店などからゴールデンウィーク向けのバーベキュー商材をはじめとする焼肉材への引き合いが強まると予測される。加えて、高値圏で推移する輸入牛肉の代替需要も見込まれることから、近年でも最も堅調な相場となる可能性が高い。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,550～2,900	B4	1,750～1,850
A4	2,400～2,550	B3	1,600～1,750
A3	2,200～2,400	B2	1,500～1,650
A2	1,900～2,200		
乳牛去勢			
B3	1,350～1,450		
B2	1,250～1,350		

豚肉営業部

2026年2月の全国と畜頭数は130万9,123頭（前年同月比1.5%増）と前年を上回った。また、2月の豚肉通関数量は6万5,538t（前年同月比8.9%減）と前年同月から減少した。内訳はチルドが3万3,141t（同20.0%増）と増加した一方、フローズンは3万2,397t（同26.9%減）と前年同月を大幅に下回った

2025-2026年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
2	72,607	71,911	24,121	192,819	71,884	69,600
3	76,052	65,956	24,424	192,115	75,606	66,660
4	77,457	93,904	24,518	197,256	77,266	88,763
5	73,100	90,460	24,091	214,149	73,406	73,567
6	68,598	83,731	24,109	222,274	68,453	75,606
7	69,871	82,687	22,399	219,105	71,374	84,255
8	63,753	74,022	21,855	216,178	64,151	76,949
9	70,991	76,220	21,545	213,175	71,134	79,223
10	81,313	84,875	21,943	209,457	80,789	88,593
11	76,416	65,268	22,199	196,931	75,962	77,794
12	82,651	68,313	22,928	182,068	81,767	83,176
1	80,664	83,073	22,910	190,177	80,567	74,964
2	73,952	65,442	23,465	186,194	73,310	69,425
比	102%	91%	97%	97%	102%	100%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

2月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	11,627	107.3%	デンマーク	2,429	58.1%
カナダ	17,243	122.6%	スペイン	4,413	28.8%
メキシコ	4,269	156.8%	メキシコ	3,855	90.1%
			アメリカ	5,115	147.4%
			カナダ	3,050	124.2%
合計	33,141	120.0%		32,397	73.1%

単位：t

＜3月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
2日	65,800	603	580	731
3日	67,100	604	594	1,006
4日	66,500	617	595	839
5日	67,300	625	604	836
6日	57,900	656	632	1,016
9日	62,100	644	634	698
10日	65,500	664	649	890
平均	64,600/日			859/日

関東でも気温の上昇に伴い鍋物需要は一服感を強めたが、月初の手当て需要などもあり、相場は上物で600円を上回る展開となり、底堅く推移した。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	64,200	676	648	718
12日	66,000	679	650	836
13日	63,500	683	658	1,018
16日	64,800	668	643	782
17日	69,000	689	653	1,070
18日	69,900	697	666	825
19日	72,000	683	654	940
平均	67,057/日			884/日

全国のと畜頭数は6万頭台前半で推移していたが、20日が休日だったため、19日は7万頭を超えた。相場は連休を控えて上昇傾向を強め、上物価格は700円近い水準となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
23日	67,700	678	652	892
24日	66,200	698	675	938
25日	66,800	703	670	851
26日	65,600	701	682	829
27日	64,300	713	686	895
30日	65,000	717	694	703
31日	62,900	740	715	981
平均	65,500/日			870/日

需要の端境期で末端の荷動きは鈍かったが、相場は25日に700円台へ乗せるなど、引き続き上昇基調で推移した。学校給食が止まる一方、寒さの戻りを受けて一部では鍋物需要もみられた。

＜4月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和8年4月の肉豚出荷予測では139万頭（前年同月比101%）と予測している。当市場の4月集荷予定せり頭数は1万7,850頭、1日あたりでは約850頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると4月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万4,900t（同79.8%）、内訳は冷蔵輸入量が3万5,400t（同98.8%）、冷凍輸入量は3万9,500t（同68.0%）と予測。

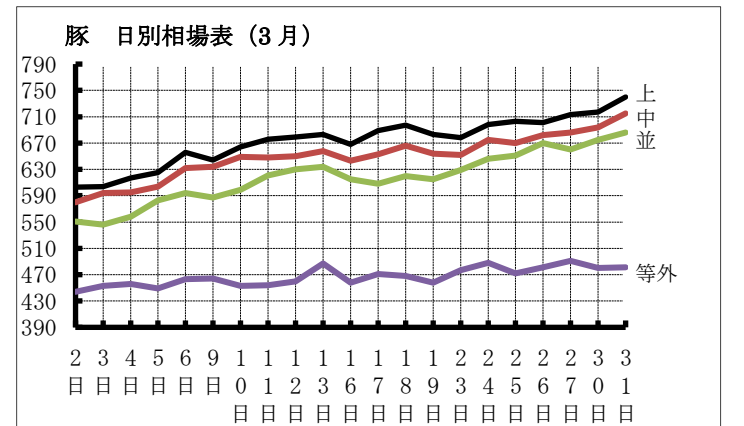
冷蔵品輸入量は、前年のカナダ産が通関のずれ込みを受け高水準となったこと等から、前年同月をわずかに下回ると予測する。一方で3カ月平均では前年同期をかなりの程度上回ると予測される。

冷凍品の輸入量は、現地相場高や為替動向、国内在庫の高止まりを受け、前年同月を下回って推移してきた。加えて、アフリカ豚熱の発生に伴うスペイン産の輸入一時停止措置から、例年3月に行われる通関保留が限定的にとどまったとみられること等から、前年同月を大幅に下回ると予測する。同じく、3カ月平均でも大幅に下回ると予想される。

気象庁によると、4月は全国的に平年より気温が高い予報で、花見・行楽需要や学校給食の再開で豚肉需要は高まり、中旬から下旬にかけてゴールデンウィーク向けの手当て買いも強まることから、相場への好影響が見込まれる。

全国の出荷頭数は例年並みとみられるが、各地での疾病や昨年の猛暑による繁殖率低下から、想定ほど増えない可能性もある。また、国産凍結品は相場高の影響で在庫が少なく、凍結玉を確保する動きもあるが、相場が一段と上昇すれば、夏場に向けた凍結品の確保が難しくなる可能性もある。

以上のことから当市場の上物平均価格は700円前後、中物平均価格680円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社